

学生さんたちとの自然観察(2)

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

大学構内の野草は、特に珍しいものはない(ニリンソウはやや珍しい)。子どもたちの観察に適したものは、一通りそろっているように思う。



講義室を出て、さっそくイネ科の雑草があったので、細く割いて、草笛を試してみた。左右の親指の間の隙間に縦に挟んで、そこを強く吹くと、なかなかいい音が出る。指で押さえる力を強くすると高い音、弱くすると低い音が出る。私は少し慣れているので、トトロの曲を披露した。さっそく学生さんも試していたが、結構良い音が出ていた。子どもにさせる場合は、葉の縁でくちびるを切らないように注意が必要だ。



次に、イタドリの若い株を何本も見つけた。茎の皮をむいて、すこしかじってみた。かなり酸っぱい。



次に、生協食堂の前にあるクスノキ(楠)に寄ってみました。クスノキは常緑広葉樹だが、落葉樹と同じように、春になると新しい葉をつける。同時に、冬を越した古い葉をたくさん落とすのだ。クスノキに限らず、春に葉を落とす常緑樹は珍しくない。

クスノキは、昔から樟脳(しょうのう)という防虫剤の原料として利用されてきた。樹の根元に落ちていた葉をひろって少しもむと、防虫剤のような独特の香りがする。樟脳は、葉や材を蒸留して作るそうなので、一度試してみたいと思っている。



最後に訪れたのが、ヤエムグラ(八重葎)のある茂みである。ヤエムグラは、茎や葉に微細な刺があり、衣服にくっつく。8枚の輪生の葉だけをつけると、勳章のように見えるので「勳章草」というあだ名がある。学生さんも互いの衣服につけたり、投げたりして、しばし童心にかえって楽しんでた。春のおだやかな一日、実に楽しい活動だった。